

第一蹴の地

第2回 下鴨神社杯 タグラグビー大会 第一蹴の地でラグビーをく



[主催] 世界遺産下鴨神社ラグビー第一蹴の地顕彰会
[協力] 関西ラグビーフットボール協会
[後援] 京都市 / 京都市教育委員会 / 京都新聞 / KBS 京都 / NHK 京都放送局
[協賛] F&P フタアンドパートナーズ AIG AIG損保 伊藤園
[特別協力] 京都紫竹ロータリークラブ
[特別後援] 賀茂御祖神社 (下鴨神社)
[主管] 第2回下鴨神社杯タグラグビー大会実行委員会

[日時] 平成30年10月21日 (日)
[会場] 賀茂御祖神社社の森馬場
[参加者] 選手…30チーム・205名
(小学生130名・中学生以上75名)、
運営スタッフ…約50名、
観戦者・保護者等…約150名
(参考: 当日参拝者約17,000人)

世界遺産下鴨神社 ラグビー第一蹴の地 顕彰会

概要

【入会のご案内】

当会の趣旨にご賛同いただける方は、ぜひご入会下さいませようお願い申し上げます

【ご入会の方法】

事務局まで入会申込書をご郵送の上、会費(寄付金)をお振り込み下さい(振込先は下記)

メール(rugby@shimogamo-jinja.or.jp) または
FAX(075-781-4722)でも受け付けております

【ご支援、ご協力をもとに実施される事業】

- ◇世界遺産下鴨神社ラグビー第一蹴の地の歴史と顕彰に関する事業
- ◇下鴨神社を通じたラグビー界の発展、向上に貢献する事業
- ◇ラグビーを通じた青少年の健全育成に関する事業
- ・下鴨神社杯タグラグビー大会 ・青少年の神社研修事業等
- ◇前号までの普及広報に関する事業及びその他本会の目的を達成するために必要な事業

【会員及び会費】

- ①正会員(個人) 1口 2,000円(個人の正会員、年会費)
- ②正会員(法人・団体) 1口 30,000円(法人または団体の正会員、年会費)
- ③賛助会員 300,000円以上(終身会費)

寄付金/会費 受け入れ口座

■銀行名	京都銀行	■支店名	下鴨支店(支店番号: 142)
■種別	普通	■口座番号	3421142
■口座名義	セカイサンシモガモジヤラグビーダイイツシユウノチケンシヨウカイ		

世界遺産下鴨神社 ラグビー第一蹴の地 顕彰会

会員特典

- 下鴨神社御本殿昇殿特別参拝
- 下鴨神社杯タグラグビー大会ご案内
- その他行祭事、会員研修のご案内
- 鴨社資料館、大炊殿等拝観無料
- 会報「第一蹴の地」の配布

※創立祭/必勝祈願奉仕(法人、団体(チーム)会員対象) ※賀茂祭社頭の儀招待(賛助会員対象)



賀茂御祖神社 (下鴨神社)

〒606-0807 京都府京都市左京区下鴨泉川町59 下鴨神社社務所内
世界遺産下鴨神社 ラグビー第一蹴の地顕彰会事務局
TEL.075-781-0010 FAX.075-781-4722 MAIL: rugby@shimogamo-jinja.or.jp

世界遺産下鴨神社
ラグビー第一蹴の地顕彰会

会長 坂田好弘



ごあいさつ

平成三十一年(2019)にラグビーワールドカップが日本で開催されることになりました。その組み合わせ抽選会を二年前に行いますが、それはアイルランドかイングランドで行うのが慣例です。しかし、私は折角なら抽選会も日本でしてほしいと申し出たところ、今回初めて前例を破って日本の、しかも京都での抽選会が実現。平成二十九年五月十日、京都迎賓館での抽選会の前に、世界遺産である下鴨神社での蹴鞠をご覧いただき、日本の古き球技と日本の文化をご紹介できたこと、さらに下鴨神社の森は、関西ラグビーの「第一蹴の地」であることを世界のラグーマンに伝えることができました。同年の秋には、その「第一蹴の地」を見守るようにラグビーの神「神魂命」を祀る「さわた社」が再興され、その遷座祭が厳かに行われました。

このたび、この「第一蹴の地」の歴史と伝統を顕彰するとともに、日本のラグビー界の発展と向上を願い、ラグビーを通じて鎮守の森における健全育成を推進するため「世界遺産下鴨神社ラグビー第一蹴の地顕彰会」が発足しました。

当会が実施する事業はラグビー界全体を盛り上げるとともに、青少年が神社を通じて日本の伝統文化を正しく理解することにより、将来のラグビー界、また日本文化の発展にも繋がるものと確信しています。どうぞ皆さま方のご理解・ご支援をお願い申し上げます。

平成二十九年(2017)十一月二十四日夜、世界遺産の下鴨神社、糺の森に一つのお社が再興されました。ラグビーの神様を祀る「雑太社」です。以後、ラグビーの聖地として多くのラグビー関係者が祈願に訪れています。そもそも、関西でラグビーが初めて行われたのが遡ること一〇八年前、明治四十三年(1910)のことです。その時、旧制第三高等学校(現京都大学の学生が慶応義塾の学生にラグビーを習った場所こそ、この雑太社の前だったのです。これを機に、三高ラグビー部が発足し同志社や京都一中(現洛北高校)なども追随しました。糺の森に「第一蹴の地」の記念碑が設けられ、下鴨神社が関西ラグビーの発祥の地といわれるゆえんです。



昨年、2019ラグビーワールドカップ抽選会が京都で開催されるのにもめない、参加国の代表やコーチら関係者が「第一蹴の地」記念碑を視察。その後ラグビーワールドカップの王者の証「ウェブエリスカップ」も到来しました。同年十月には第一回下鴨神社杯ラグビー大会が開催され、今年の五月にはニュージーランド学生代表が下鴨神社楼門前で勇壮なハカを奉納するなど、名実ともにラグビーの聖地として周知されてきています。

第二回目となった本大会は京都を中心にタグラグビークラブやラグビースクールといったラグビーに親しんでいる子どもたちはもちろん、普段、糺の森で活動しているボーイスカウト・ガールスカウトのスカウトたちや、かつてグラウンドとともに汗を流した仲間同士で編成する高校ラグビー部OBチーム、さらにはデフラグビー(聴覚障がい者ラグビー)日本代表選手にもご参加いただきおおいに大会を盛り上げていただきました。年配の方や女性選手の活躍、雑太社前にもうけた人工芝スペース「下鴨神社ラグビーパーク」ではエントリー選手以外の子どもたちもラグビーボールとたわむれる姿が見られ、多様なラグビーを愛する人々が参集し、盛大な大会となりました。

開会式では、まずラグビーの神さまである雑太社に全員で参拝し、神社の神職からはお祓い(はらひ)をうけました。そして糺の森の木漏れ日(きもれひ)をうけながら、子供たちは思う存分に走りまわり、ラグビーを楽しむことができました。ノーサイドの笛の後の「アフターマッチファンクション」(ノーサイドの精神を体現するゲーム後にお互いのチームの健闘を称えあう交流の場)では、チームの別なく肩を組んだり、ユーモアを交えた素敵なスピーチで交歓しあっている姿を見ることが出来ました。



「ラグビーを通じて日本の伝統文化に触れる機会を提供し、神社、鎮守の森における青少年活動を推進する」という開催目的にかなった大会の開催ができたことは、関係者の思いが結実したものと思っています。将来、大会に参加した子供たちが、フェアプレー、ノーサイド、ワンフォールオールフォーワンといったラグビーの精神をつちかい、世界遺産の神社で実施できたことは、日本が世界に誇る文化や文化財の保存と継承の担い手となることを期待するものでもあります。すべては一〇八年前の先人の一蹴りからはじまりました。この先の一〇〇年も見据えて、この取組を続けていくことに価値があると確信しています。末筆ながら、本大会に多大なご協賛頂きました京都紫竹ロータリークラブ様、(株)伊藤園様、AIG損害保険(株)様、(株)フクダアンドパートナーズ様をはじめ、ご協力頂いた全ての方々に感謝申し上げます。

